

4,359名が志願

2014年度県内公立中高一貫校入学者選抜を振り返る

開校6年目の県立中等教育、開校3年目の横浜市立南高校附属中、そして開校初年度の川崎市立川崎高校附属中4校あわせて「600の指定席」を、その7倍以上の4,359名の小6生が目指しました。県内公立小6生の5.5%が志願したことになります。

1 Topics

3年連続県下トップ!

※3校計・南附属合格者数において3年連続、平塚中等は2年連続

3校で前年を上回る合格の笑顔

私学との併願、公立中高一貫校のみの受検、あるいは個別指導で集団指導で、とそれぞれのニーズに合わせた対策が行える中萬学院グループ。CHUMAN生はすばらしい健闘を見せ、3校で前年を上回る合格となりました。特に南附属では定員の41%、平塚中等では定員の36%をCHUMAN生が占めます。また初年度川崎附属(市内のみ募集)には3名が合格、すべてCGパーソナル川崎教室の生徒です。また各校の全体合格率に対して、CHUMAN生の合格率はいずれも上回り、対策指導が功を奏しているといえます。

右のグラフは公益社団法人全国学習塾協会の定める実績対象に基づく合格者数の推移です。入試から逆算して3カ月以上継続して受講していること、など基準が定められています。協会に加盟していない塾は、独自の基準で合格者を公表しています。

県内公立中高一貫校 2014年度合格実績 4校計 140名 各塾中 No. 1

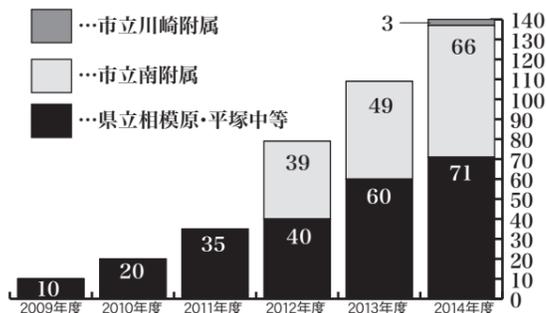
No.1 市立南高校附属中学校 66名 (11・54・1)

No.1 県立平塚中等教育学校 57名 (5・50・2)

県立相模原中等教育学校 14名 (1・12・1)

市立川崎高校附属中学校 3名 (—・—・3)

※()内はCG啓明館・CG中萬学院・CGパーソナルの合格者数



※公益社団法人全国学習塾協会自主基準に基づく実績対象者の合格者数

受検者は 4,193名

今年受検状況は右のとおりです。例年私学併願者の多い相模原・南附属で200名以上の志願者減となる一方、平塚中等では昨年より19名減の志願者数でした。しっかり対策学習を積んだ受検生の入試となってきたこと、また私学併願者では、3日を有効活用したいという意思が働いたことがうかがわれます。一方、開校初年度の川崎附属は、市内公立小6生の7.5%が志願する人気を見せ、実質倍率も7.11倍を記録しました。志願・受検者の男女内訳は非公表ですが、当日の受検会場の様子では女子が多く、実際の合格者も定員の63%を女子が占めました。

「私立中学受験の勉強をしていないと受からない」といった我田引水的な話に惑わされることなく、自信をもって受験勉強に臨んでほしいと考えます。

倍率の推移	平塚中等教育		相模原中等教育		南高校附属中学		川崎高校附属中学
	男子80名	女子80名	男子80名	女子80名	男子80名	女子80名	
志願者	404	472	578	688	632	29	706
《2013》	《407》	《488》	《703》	《791》	《686	25》	《907
[2012]	[400]	[481]	[754]	[811]	[815	38]	[952
<2011>	<395>	<473>	<648>	<829>	<815	38]	<952
(2010)	(357)	(436)	(683)	(802)			
志願倍率	5.05	5.90	7.23	8.60	7.90	8.83	7.33
《2013》	《5.09》	《6.10》	《8.79》	《9.89》	《8.58》	《11.34》	
[2012]	[5.00]	[6.01]	[9.43]	[10.14]	[10.19]	[11.90]	
<2011>	<4.93>	<5.91>	<8.08>	<10.36>			
(2010)	(4.46)	(5.45)	(8.53)	(10.03)			
欠席取り消し	9	11	21	21	36	5	37
《2013》	《6》	《9》	《30》	《20》	《33	1》	《40
[2012]	[5]	[7]	[33]	[27]	[26	4]	[45
<2011>	<10>	<15>	<26>	<28>			
(2010)	(3)	(5)	(27)	(36)			
受検者	395	461	557	667	596	24	669
《2013》	《401》	《479》	《673》	《771》	《653	24》	《667
[2012]	[395]	[474]	[721]	[784]	[789	34]	[907
<2011>	<385>	<458>	<622>	<801>			
(2010)	(354)	(431)	(656)	(766)			
競争率	4.94	5.76	6.96	8.34	7.64	合格78	8.16
《2013》	《5.01》	《5.99》	《8.41》	《8.41》	《9.33》	合格70	《9.63》
[2012]	[4.94]	[5.93]	[9.01]	[9.80]	[9.86]	合格70	[11.34]
<2011>	<4.81>	<5.73>	<7.78>	<10.01>			
(2010)	(4.43)	(5.39)	(8.20)	(9.58)	合格78	3	合格82

※受検者…志願後、取り消しや欠席をせず適性検査・グループ活動を受検した人数。グループ活動受検後の取り消しは非公表のため、実質倍率として扱います
★…南高校附属中は1次選考で男女各70名を選考し、2次選考で20名を適性検査得点上位者から決定します。志願倍率は便宜上80名定員でそれぞれ算出しています。実合格者に対する志願倍率は男子8.10倍、女子8.61倍です

3 Topics

県立、横浜市立、川崎市立それぞれに個性

「実践的算数力」の県立、「思考力・試行力」の横浜市立、「表現力」の川崎市立

「実践的算数力」と「意見記述」

6回目となった県立中等教育適性検査。今年も全体を通して「実践的算数力」が問われる手応えのある、教科横断型の適性検査らしい「良問」でした。「実践的算数力」とは、ただ公式を当てはめればよい算数の問題ではなく、図や資料から必要な情報を集め、計算したり試行したりしながら解答を導く力で、県立に限らず他の適性検査でも同様に求められます。

昨年出題された150字以内の記述も出題されました。800字程度の説明文の内容を踏まえたうえで「道路の整備は具体的にどう進めていくべきかと思うか」について自分の意見を150字以内で記述するものです。文章や資料を読み取り、それに対する自分の意見を記述する問題は、横浜市立、川崎市立でも出題され、これも適性検査で求められる共通の力と言えます。

横浜市立のIIは「ねばり強く試行する」

一方、横浜市立の適性検査問題。今年もIは国語、IIは算数・理科、IIIは社会と、教科的色合いの濃い出題であったと言えます。「廃藩置県」「鎌倉」といった知識をそのまま問う出題も例年通りでした。横浜市立の定番となったのが多くの作業を必要とする問題です。今年も適性検査IIの6割以上が複雑な計算を伴う算数・理科の出題で、教科的知識の出題はなく「作業力・試行力」の問われる、受検生泣かせの問題でした。45分の検査時間で速く正確に解くことと、解けるところから解く要領も求められるため、ふだんから時間を意識した練習を十分に積んでおくことが必要です。

川崎市立は半数以上が記述式解答

注目の川崎附属の適性検査。Iは文章読解と400字以内の意見作文という横浜市立と同様の出題に加え、記述式解答2題を含む大設問1題が出題されました。45分で解くにはスピードが要求される内容です。しかし、全体を通しては図形問題もなく、平易な問題でした。特徴的なのは計算がすべて単位換算であったこと、そして25ある小問のうち、実に13問が記述式であったことです。外国人との交流会で行いたい体験とその理由、算数の計算式が正しい理由など、採点のたいへんさが想像できる問題です。特に象徴的なのが実験シートの作成。「必要に応じて図を使いながら『カードを見た人が実験できる手順』を書きましょう」という出題でした。他校と比べ表現力重視の適性検査であったと言えますが、2年目は難易度含め変わる可能性があります。「川崎型」が定着するまでは、広く適性検査対策学習を進めていきましょう。

公立高校入試、とりわけ湘南・横浜翠嵐など進学重点校で多くで実施される特色検査と、適性検査で問われる力は、共通しています。それは教科横断型の「知識の活用力」。将来につながる学力を適性検査対策を通して身につけていきましょう。

県立 I問

「実践的算数力」が問われる手応えのある、教科横断型の適性検査らしい「良問」でした。「実践的算数力」とは、ただ公式を当てはめればよい算数の問題ではなく、図や資料から必要な情報を集め、計算したり試行したりしながら解答を導く力で、県立に限らず他の適性検査でも同様に求められます。

横浜市立 II問

「ねばり強く試行する」がテーマの問題。多くの作業を必要とする問題です。今年も適性検査IIの6割以上が複雑な計算を伴う算数・理科の出題で、教科的知識の出題はなく「作業力・試行力」の問われる、受検生泣かせの問題でした。

川崎市立 III問

記述式解答2題を含む大設問1題が出題されました。45分で解くにはスピードが要求される内容です。しかし、全体を通しては図形問題もなく、平易な問題でした。

問題(1)は歩いたときの速さと時間から縮尺を求める問題、**(2)**は資料や図から日本大通りが作られた目的を読み取り、記述する問題です

横浜市 II問

問題1は2本の線が最も短い直方体を、問題2は12個の積み木で作れる直方体の種類を答える問題です

川崎市 III問

記述式解答2題を含む大設問1題が出題されました。45分で解くにはスピードが要求される内容です。しかし、全体を通しては図形問題もなく、平易な問題でした。

川崎市

川崎市立川崎高等学校附属中学校入学適性検査 解答例

問題1 (1) 問題1は歩いたときの速さと時間から縮尺を求める問題、(2)は資料や図から日本大通りが作られた目的を読み取り、記述する問題です

川崎市

問題2 (1) 問題2は2本の線が最も短い直方体を、問題2は12個の積み木で作れる直方体の種類を答える問題です

○印をつけたのが記述式の解答。今春の公立高校入試数学問題に解く過程を記述する出題がありました。IIの問題2(4)はそれに近い趣旨の出題です。また実験シートの記入では相手に分かりやすく伝える工夫も求められます。

各校の適性検査問題は神奈川県「カナロコ」に掲載されています。中萬学院HPからもアクセスできます